

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第150回

(2025年7～9月期)

令和7年10月

桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。

2. 調査時点 2025年9月1日

3. 調査期間 2025年7～9月期

4. 調査対象企業数 373 企業（うち回答企業数 126 企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数 17 企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数 54 企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数 26 企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数 29 企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d e x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。
このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で－24。前期（－22）比は－2ポイントとなった。また前年同期（－23）比では－1ポイントとなった。

業種別では、**建設業－29**（前期比－8、前年同期比－24）、**商業・サービス業－29**（前期比＋4、前年同期比－4）、**機械金属製造業±0**（前期比＋19、前年同期比＋18）、**繊維製造業－31**（前期比－27、前年同期比＋7）となっている。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で－28。前期（－28）比は±0ポイント、前年同期（－32）では＋4ポイントとなった。

業種別では、**建設業－47**（前期比－9、前年同期比－15）、**商業・サービス業－32**（前期比＋6、前年同期比＋6）、**機械金属製造業±0**（前期比＋23、前年同期比＋4）、**繊維製造業－31**（前期比－27、前年同期比＋15）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で－22。前期（－22）比では±0ポイント、前年同期（－25）比では＋3ポイントとなった。

業種別では**建設業－29**（前期比－6、前年同期比±0）、**商業・サービス業－20**（前期比＋7、前年同期比＋7）、**機械金属製造業－7**（前期比＋21、前年同期比＋7）、**繊維製造業－33**（前期比－28、前年同期比－5）となっている。

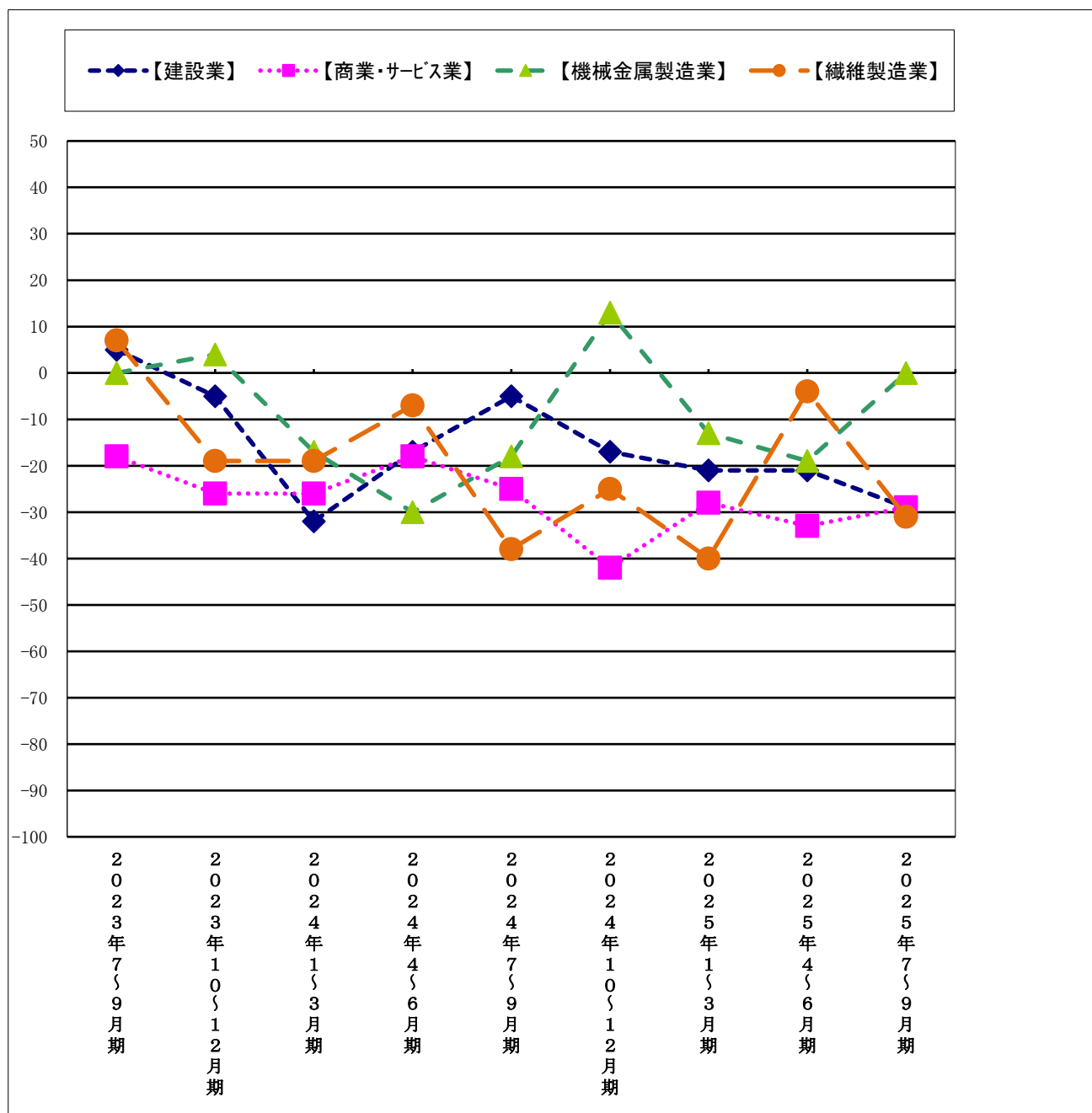
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（18.6%）、「従業員の確保難」（16.3%）、**商業・サービス業**では「需要の停滞」（14.8%）と「消費者ニーズの変化への対応」（13.3%）、**機械金属製造業**では「人件費の増加」（16.9%）、「従業員の確保難」（15.5%）、**繊維製造業**では「原材料価格の上昇」（17.1%）、「需要の停滞」（14.5%）が上位となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2023年7～9月期	5	-18	0	7
2023年10～12月期	-5	-26	4	-19
2024年1～3月期	-32	-26	-17	-19
2024年4～6月期	-17	-18	-30	-7
2024年7～9月期	-5	-25	-18	-38
2024年10～12月期	-17	-42	13	-25
2025年1～3月期	-21	-28	-13	-40
2025年4～6月期	-21	-33	-19	-4
2025年7～9月期	-29	-29	0	-31

〔2023年7～9月期〕から〔2025年7～9月期〕



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－29。前期比では－8、前年同期比では－24ポイントとなった。
業種別では、建築・大工業〔－67〕、土木業〔±0〕、管工事業〔±0〕、鉄骨・鉄筋業〔±0〕、電気工事業〔±0〕、左官・屋根業〔±0〕、その他〔－20〕ポイントとなった。
- 来期業況 来期業況予測のD Iは－29。前期比－6、前年同期比では±0ポイントとなっている。

【商業・サービス業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－29。前期比は＋4、前年同期比では－4ポイントとなった。
業種別では、卸売業〔±0〕、小売業〔－43〕、飲食業〔＋29〕、サービス業では〔－29〕ポイントとなった。
- 来期業況 来期業況予測のD Iは－20。前期比＋7、前年同期比では＋7ポイントとなっている。

【機械金属製造業】

- 今期業況 今期の業況D Iは±0。前期比では＋19、前年同期比では＋18ポイントとなった。
業種別では、鉄鋼業〔－33〕、非鉄金属業〔±0〕、金属製品業〔＋29〕、一般機械器具業〔＋100〕、電気機械器具業〔±0〕、輸送用機械器具業〔－25〕、精密機械器具業〔±0〕、プラスチック製造業〔－50〕、その他〔±0〕ポイントとなった。
- 来期業況 来期業況予測のD Iは－7。前期比＋21、前年同期比では＋7ポイントとなっている。

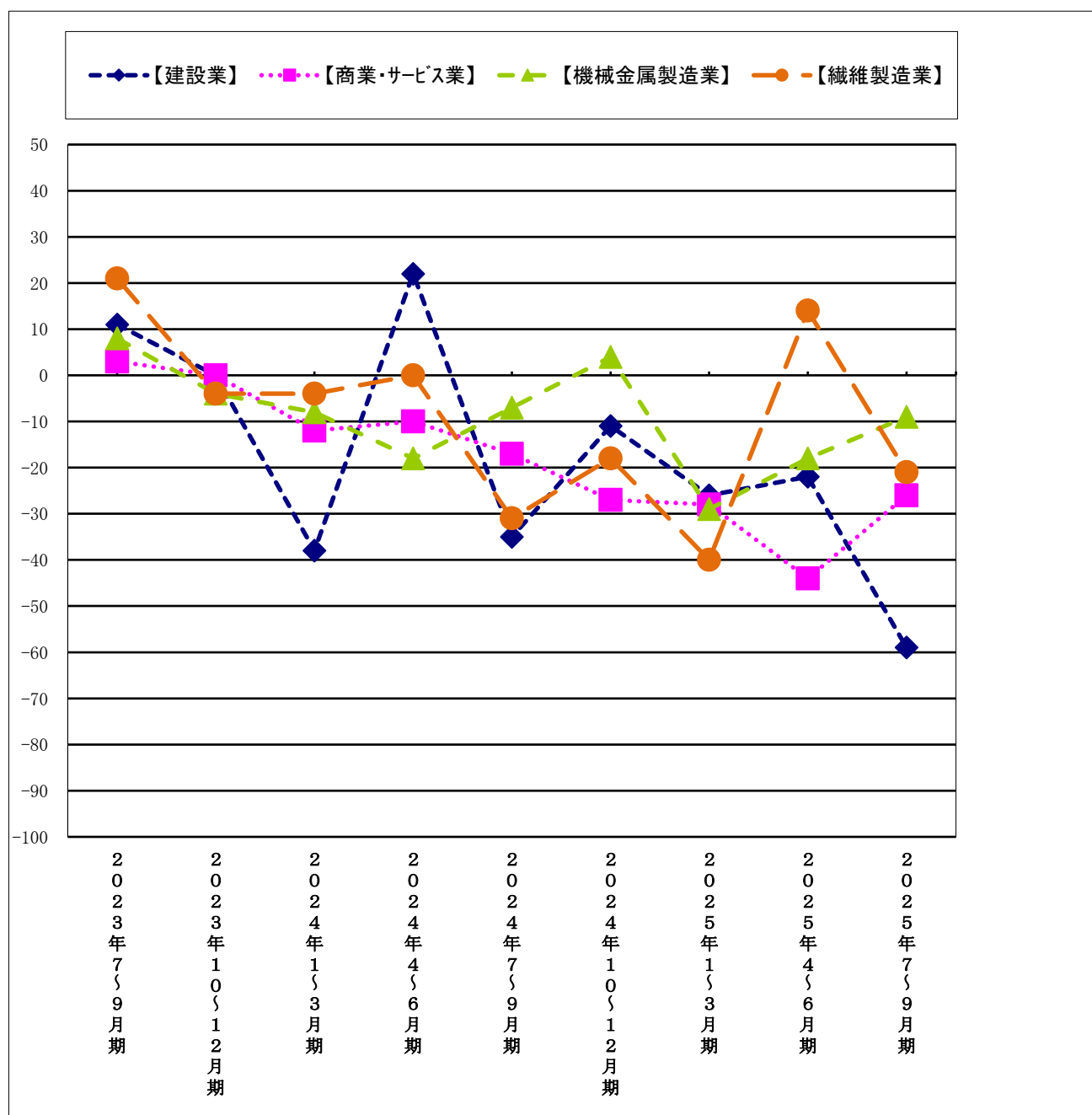
【繊維製造業】

- 今期業況 今期の業況D Iは－31。前期比では－27、前年同期比では＋7ポイントとなった。
業種別では、撚糸業〔－100〕、織物業〔－20〕、染色整理業〔－25〕、ニット・メリヤス業〔－100〕、レース業〔－100〕、縫製業〔＋100〕、刺繍業〔±0〕、その他〔－75〕ポイントとなった。
- 来期業況 来期業況予測のD Iは－33。前期比－28、前年同期比では－5ポイントとなっている。

売上額（完成工事額）DIの推移

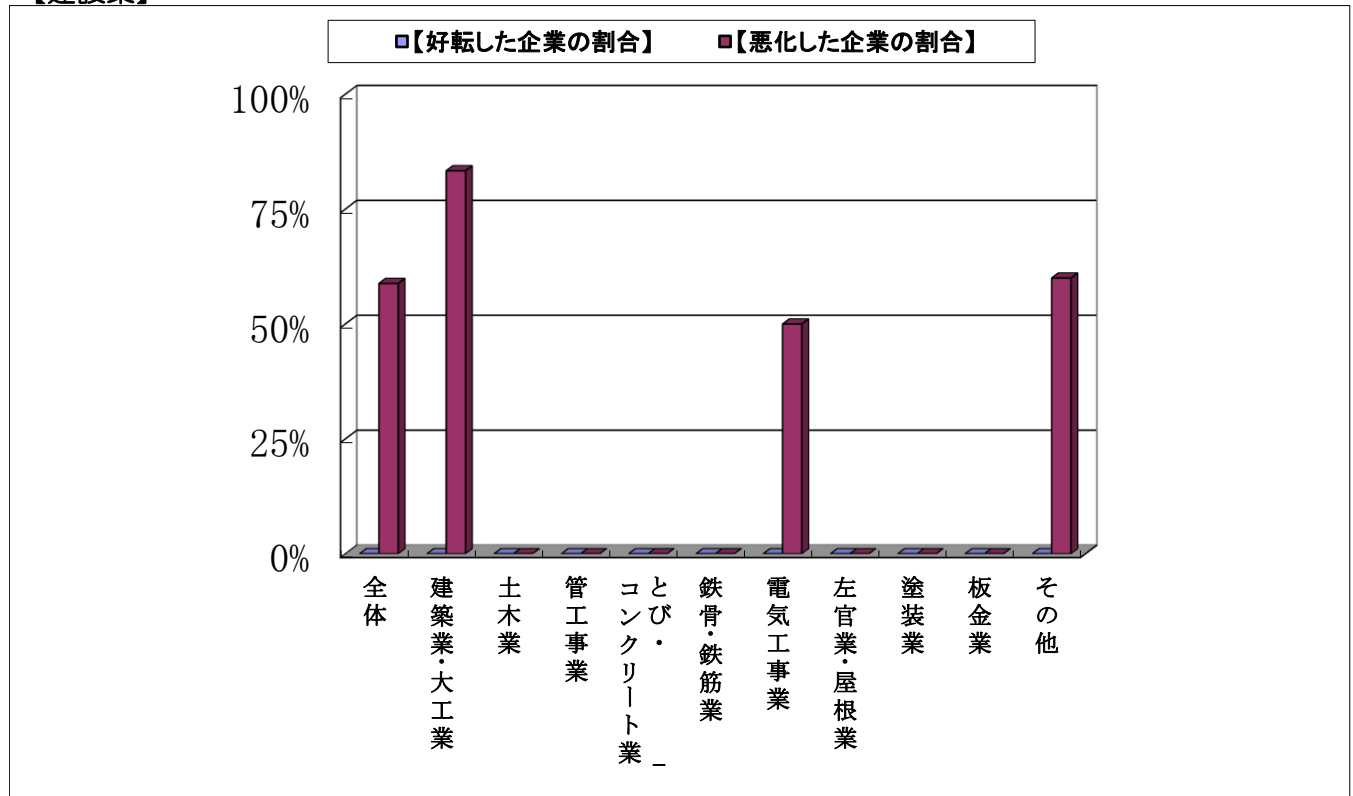
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2023年7～9月期	11	3	8	21
2023年10～12月期	0	0	-4	-4
2024年1～3月期	-38	-12	-8	-4
2024年4～6月期	22	-10	-18	0
2024年7～9月期	-35	-17	-7	-31
2024年10～12月期	-11	-27	4	-18
2025年1～3月期	-26	-28	-29	-40
2025年4～6月期	-22	-44	-18	14
2025年7～9月期	-59	-26	-9	-21

〔2023年7～9月期〕から〔2025年7～9月期〕

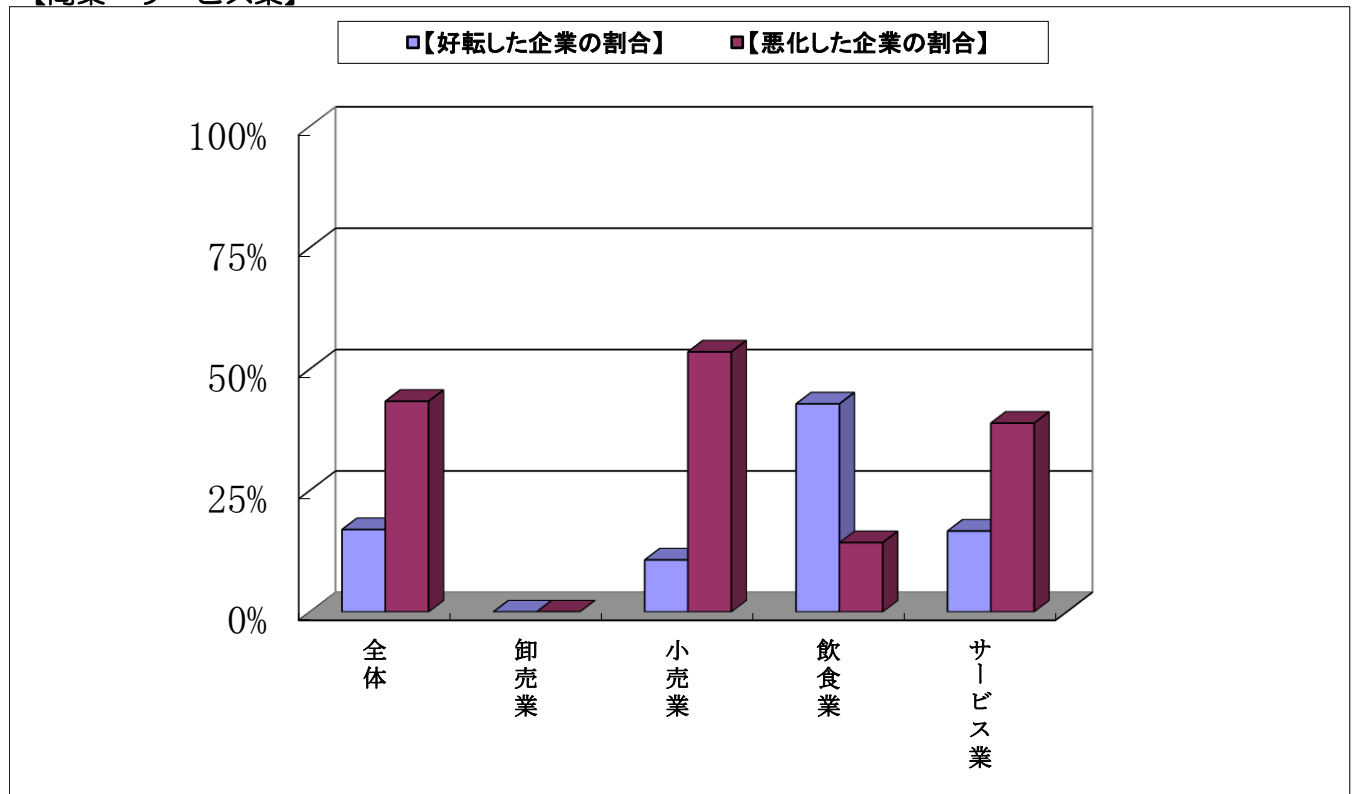


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

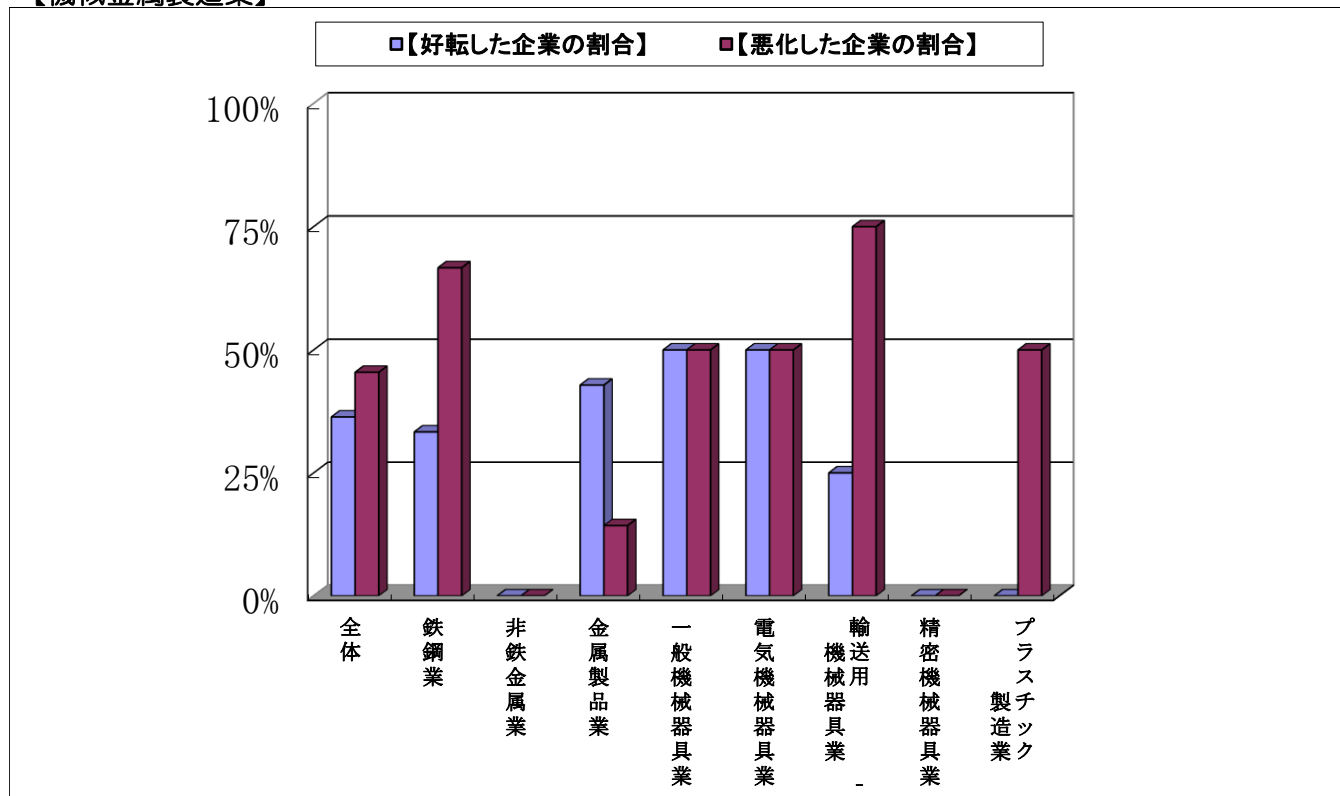
【建設業】



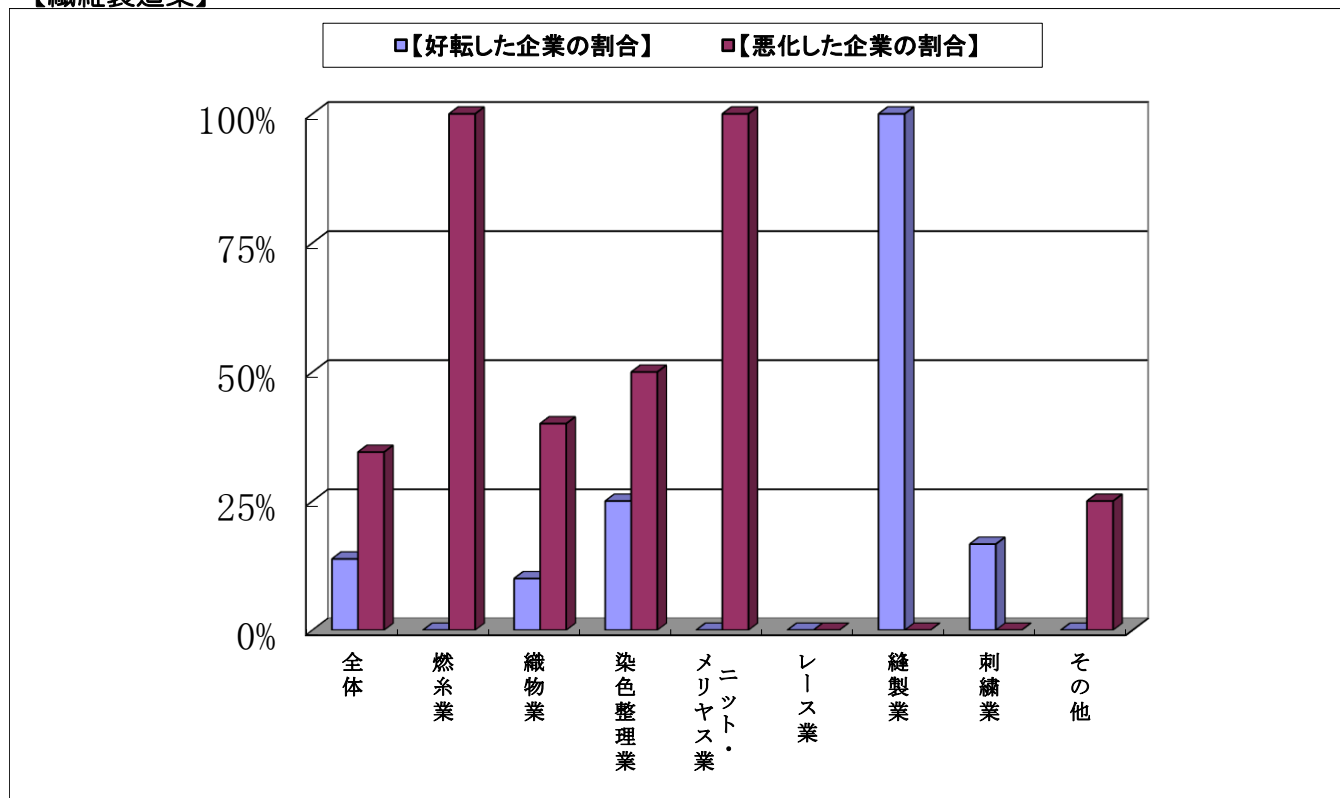
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



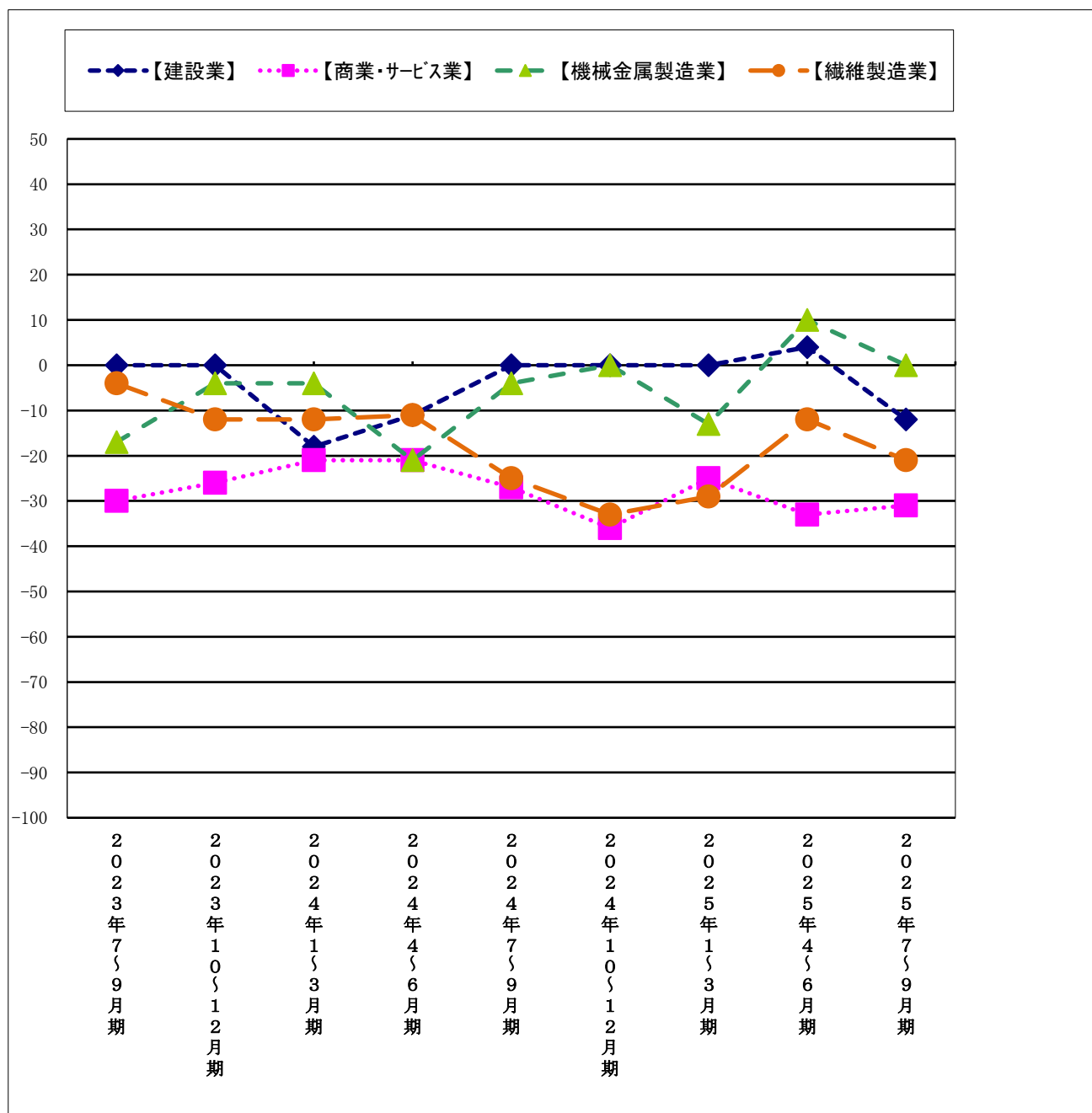
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
2023年7～9月期	0	-30	-17	-4
2023年10～12月期	0	-26	-4	-12
2024年1～3月期	-18	-21	-4	-12
2024年4～6月期	-11	-21	-21	-11
2024年7～9月期	0	-27	-4	-25
2024年10～12月期	0	-36	0	-33
2025年1～3月期	0	-25	-13	-29
2025年4～6月期	4	-33	10	-12
2025年7～9月期	-12	-31	0	-21

[2023年7～9月期] から [2025年7～9月期]



今期直面している経営上の問題点

	1 位 (%)		2 位 (%)		3 位 (%)		4 位 (%)		5 位 (%)	
建設業	材料価格の上昇		従業員の確保難		官公需要の停滞		民間需要の停滞		熟練技術者の確保難	
	18.6		16.3		11.6		9.3		9.3	
前期	2位	14.7	3位	13.2	7位	5.9	1位	16.2	5位	11.8
前年同期	1位	23.5	2位	13.7	6位	7.8	3位	13.7	4位	13.7
商業・サービス業	需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		材料等仕入単価の上昇		人件費の増加		従業員の確保難	
	14.8		13.3		12.6		9.6		8.1	
前期	4位	10.2	3位	11.6	1位	16.3	2位	13.6	5位	8.8
前年同期	3位	10.7	4位	10.0	1位	14.7	2位	14.0	7位	6.7
機械金属製造業	人件費の増加		従業員の確保難		原材料価格の上昇		需要の停滞		製品単価の低下・上昇難	
	16.9		15.5		15.5		12.7		11.3	
前期	4位	12.0	1位	17.3	3位	12.0	2位	13.3	5位	12.0
前年同期	5位	10.8	2位	18.1	1位	18.1	3位	14.5	4位	12.0
繊維工業製造業	原材料価格の上昇		需要の停滞		生産設備の不足・老朽化		人件費の増加		製品ニーズの変化への対応	
	17.1		14.5		14.5		13.2		9.2	
前期	5位	10.7	1位	16.0	2位	12.0	7位	9.3	4位	12.0
前年同期	1位	21.0	2位	16.0	3位	9.9	10位	3.7	4位	9.9

事業所からのコメント（直面している問題点など）

〔建設業〕

- 桐生市内の不動産物件における情報は減少傾向にある。

〔商業・サービス業〕

- 猛暑日が多く、7～9月は人が出ない日が多い。
- 手の打ちようがありません。
- 人口減による客数減。
- 定期昇給が最賃上昇に追い付かない、価格転嫁困難。

〔機械金属関連業〕

- 調査項目のなかにアメリカの関税についての質問を入れたら良い。
- トランプ関税の影響が徐々に経営を圧迫しつつある。
- 景気の減速感から消費マインドが低下しており、高額商品の落ち込みが顕著。原材料やエネルギーの高止まり、賃上げのためのコスト上昇が続き、経営環境は依然として厳しい。
- 米国関税の影響が利益悪化の主要因となっている。追加関税発生分は顧客への売価転嫁できるかがポイントとなる。

〔繊維工業〕

- 面倒な仕事が多くなりました！
- 業界として活気と推しが無い。お客様の買い気がうすれ厳しい！！商品遣いが難しい時代になった。
- 税金負担の圧迫感。
- 仕事を確保はできているが生産性（自社、協力工場不足）が上がらない為、加工賃のアップがお客様と一緒に物作りをしていく壁になっている。
- 新事業へ打って出る勇気不足。